

国際関係学部長の新里孝一です。岡田宏二先生のご経歴とご業績についてご紹介いたします。

岡田宏二先生は、1978年3月上智大学大学院文学研究科史学専攻博士課程を修了されると同時に、本学に着任されました。以来、38年の長きにわたって、学部及び大学院において東洋史を中心に教鞭をとってこられました。

1994年には『中国華南民族社会史研究』を上梓され、この業績により本学より博士号（文学）が授与されました。本研究は、ご自身の20年におよぶ中国少数民族研究を基礎に、揚子江中流域に居住する非漢民族に対し、唐宋の時代に中国王朝が行った外交政策を解明した労作であります。岡田先生の中国少数民族研究は日本国内のみならず中国の研究者の間でも高い評価を得ています。このことは、北京にある民族出版社が『中国華南民族社会史研究』に注目し、2002年2月に「外国学者民族研究文庫」の第一冊目として、中国語に翻訳し出版していることから明らかであります。

教育と研究面で大きな成果を上げられる一方で、大学や学部運営にかかわる数々の要職を歴任されました。大学においては、東松山学部連合教務委員会委員長を2期4年務められたのをはじめ、国際文化学科主任、大学院アジア地域研究科委員長を2期4年、国際関係学部長及び現代アジア研究所長を務めました。学園の役職としては3度の評議員、理事を歴任されています。とりわけ、国際関係学部において、学科主任と学部長と大学院研究科委員長の三役すべてに選出されたのは、30年の歴史の中で岡田先生一人であることは特筆に値する事実であります。

去る2月27日に、「教員生活、研究生活を振り返って」と題する退職記念講演会が開催され、学内外から200名ほどの方にお集まりいただきました。ご年配の方も多く、大半は、岡田先生が、1980年代後半から今日まで熱心に続けられている「いきいき埼玉」や本学地域連携センターのオープンカレッジの受講生の方々でした。

講演会に集った大勢の「岡田ファン」を前に、岡田先生が長期にわたって市民を対象とする中国歴史講座を地道に続けてこられたことを知り、学部の教職員一同が改めて岡田先生への尊敬の念を深くした次第です。

国際関係学部の学生はもとより、教職員一同、岡田先生のようなすぐれた研究者から、40年近くもの間、親しくご指導いただけたことを幸運であると思うと同時に、たいへん誇りに思っております。

今後も、本学名誉教授として、生涯学習の分野で、多くの市民に向けたすばらしい講義を行なっていただきたいと願っております。一層のご活躍とご健康をお祈りいたします。

以上、岡田宏二先生のご紹介とさせていただきます。ありがとうございました。